

枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格に規定された接着剤の評価基準

項目	試験		樹種 密度	試験体採取		評価基準		
	名称	参考規格		試験体形状	個数	評価項目	参考基準	基準値
耐水性	煮沸剥離試験及び減圧加圧剥離試験(2回繰り返し)	2×4製材及びFJ材のJAS規格	中密度材 +低密度材	中央にジョイント部を含む38×89×200mmの試験体を中央部で切断し2片とする。ただし、フィンガーの長さが16mm以下の場合にはジョイント部を横切りしたもの1片とする。	10本 (20片、フィンガーの長さが16mm以下の場合には10片)	剥離率	2×4製材及びFJ材のJAS規格	密度ごとに、剥離率が以下の条件毎の基準値に適合する試験片数が、全試験片数の90%以上であるときは合格とする 1)フィンガーの長さが16mm以下の場合には、剥離率5%以下 2)フィンガーの長さが16mmを超える場合には、平均剥離率が5%以下
耐熱性	加熱圧縮せん断試験	JIS K6831	高密度材	ブロックせん断	3体×4個	所定温度におけるせん断強度残存率(木破率)	API耐火性能検討委員会平成16年度報告	100℃のせん断強さが、常温時のせん断強さに0.45を乗じた数値以上。
引張り性能	引張り試験	集成材のJAS規格	中密度材 +低密度材	特級又は1級で試験体の中央部にジョイント部を含む以下のサイズのもの 38×89×1,200mm以上	各10体 計20体	引張り強さ	集成材のJAS規格	中密度材(特級) 試験体の引張り強さの平均値が、28.5MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上、かつ、試験体の全ての引張り強さが、21.5MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上 中密度材(1級) 試験体の引張り強さの平均値が、26.5MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上、かつ、試験体の全ての引張り強さが、20.0MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上 低密度材(特級) 試験体の引張り強さの平均値が、23.5MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上、かつ、試験体の全ての引張り強さが、17.5MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上 低密度材(1級) 試験体の引張り強さの平均値が、21.5MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上、かつ、試験体の全ての引張り強さが、16.0MPa又はN/mm <sup>2</sup> 以上
耐クリープ性	クリープ試験	ASTM D2559-12 EN 15416-2:2007	高密度材	多層接着層試験体 47.7×50.8×276.22mm	2つの条件について2体ずつ	変形量	CSA 0112.9-10 § 4.10.1	断面ごとの平均変形量が0.25mm以下。かつ、全断面の平均変形量が0.05mm以下。かつ、試験体4体全てが破壊しないこと。
				多層接着層試験体 48×50.8×133.6mm	3条件を順に6体		prEN 15425 EN 301 EN 16254	全断面の平均変形量が0.05mm以下。かつ、試験体6体中、5体が破壊しないこと。